

【概要】提言書「旧興業館」の活用方針等について

～有効活用の具体化に向けて～

基本理念

文化財としての価値を明らかにする

- 1 「旧興業館」建設時の思いと歴史的意義の継承
 - ・ 「興業館」等として鹿児島県の産業振興に寄与
 - ・ 「旧考古資料館」から「旧興業館」への名称変更
- 2 建築的価値の保存と顕彰
 - ・ 県内で2番目に古く、当時の鹿児島の石造建築を現代に伝える建造物
 - ・ 洋風を基調としながら和風やインド風の要素も加味した特徴的な建築

立地的な価値を示す

- 1 鹿児島城跡や近代化遺産など歴史的な価値を“五感”で感じる空間
 - ・ 鹿児島の近代化発祥の地であり、歴史を“五感”で感じる
- 2 鹿児島の文化に触れ、落ち着いた時間を過ごすことができる空間
 - ・ 「かごしま文化ゾーン」に立地し、鹿児島の文化の魅力を満喫
- 3 「まち」を結び、「鹿児島の粋」にふれる空間
 - ・ 鹿児島市中心市街地として各商業・観光施設との連携を図る
 - ・ 交通の要衝として鹿児島の産業・文化の魅力発信

開かれた保存・活用のプロセスを通して、多くの人々と価値を共有する

- 1 開かれた保存活用の計画とプロセス
 - ・ 同館の持つ価値、活用のあるべき姿について、県民の幅広い関心と理解を深める
- 2 事業運営を幅広い連携により進める
 - ・ 県民ぐるみで見守り、育てていく機運を醸成し、公民連携で取組を進める

活用の方向性

建物の保存と公開を図る

- 1 建物の価値と耐震性能に関する早期の調査・改修
- 2 公開と使用に必要な軽装備の設備の付加
(公開と使用の例)
 - ・ 文化活動や研修会
 - ・ 小規模の展示や催し物

開かれた活用への展開

- 1 今後100年を見据えた鹿児島の未来を象徴する施設コンセプトの設定
 - ・ 今後100年の鹿児島の未来を見据えながら、産業、建築、歴史、文化、情報の発信の視点から、鹿児島の未来を象徴する機能を盛り込むこと
 - ・ こうした機能を幅広い主体の協働によって発揮すること
- 2 活用と運営を担う主体の形成
 - ・ 行政及び民間の幅広い意見等を反映させる公民連携を実現
- 3 周辺と一体となった活用
(新たなコンセプトによる活用例)
 - ・ 産業振興・にぎわい創出による地域活性化の拠点
 - ・ 鹿児島の歴史・文化に関する情報発信の拠点
 - ・ かごしま文化ゾーンをめぐる観光ルート等の拠点
 - ・ 静寂で落ち着いた雰囲気を生かした教育・文化の拠点

活用に向けての機運醸成

- 1 旧興業館を身近に感じてもらうイベントの開催
- 2 建造物としての魅力を発信するイベントの開催